

令和3年度(2021年度)第2回北海道子どもの未来づくり審議会 議事録

日 時：令和3年(2021年)11月17日(水) 15:15～16:15

場 所：オンライン開催

出席者：別添「出席者名簿」のとおり

議 題：別添「次第」のとおり

《開 会》

【子ども子育て支援課 寄木課長補佐】

それでは、定刻になりましたので、ただ今から「令和3年度第2回北海道子どもの未来づくり審議会」を開催します。本日はお忙しい中、御出席くださりまして、ありがとうございます。議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきます、保健福祉部子ども子育て支援課 課長補佐の寄木です。どうぞ、よろしくお願いいたします。

今回も、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、オンライン開催としております。オンライン開催に当たりましての留意事項ですが、発言される方は、毎回、お名前をおっしゃってから御発言をお願いします。また、発言される時以外は、マイクをミュートにさせていただくようお願いいたします。何かと御不便をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

では、開会に当たりまして、保健福祉部少子高齢化対策監から御挨拶申し上げます。

【保健福祉部 京谷少子高齢化対策監】

皆様、お疲れ様でございます。少子高齢化対策監をしております、京谷でございます。委員の皆様におかれましては、日頃から、本道の未来を担う子どもたちの健やかな成長に向けた、様々な御支援、御協力をいただいていること、厚く感謝を申し上げます。

また、本日もリモート開催ということで、感染症拡大は、様々なところに影響を及ぼしております。私どもの関係でいきますと、将来に対する不安から、結婚や出産などに消極的になって、少子化に一層の拍車がかかっているのではないかとといった心配ですとか、長引くリモート勤務や休業、休校などによりまして、家庭内でのストレスが増大し、DVや虐待につながっていくことが危惧されるなど、子どもとその家庭を取り巻く環境は一層厳しいものとなっております。

さらには、現在の状況が収束していったとしても、ひとり親家庭をはじめとする経済的に厳しい世帯への支援、それから子どもの貧困対策など、新型コロナによって一層明確になったいろいろな課題に対しまして、これまで以上に一つ一つの確かつ丁寧に対応していくことが求められていると思います。

そうした中、今年度は3年ぶりに子ども部会を開催し、コロナ禍であっても、子どもたちが未来に希望を持って暮らしていく上で必要だと思うことをテーマに、道内の17名の中・高校生が2日間にわたって、オンラインで熱心に議論をしていただきましたので、本日、その結果を御報告させていただきます。

子どもたちが自らの意見を表明する機会を保障すること、それから施策への反映につきましては、これまでも道議会で議論されておりますが、我々大人が果たすべき、大変重要な課題の一つでございます。北海道の地域創生やまちづくりに将来を担う子どもたちの想いや視点を取り入れることは大切であると考えておりまして、皆様には、私から二点ほどお願いがございます。

まず、自らの発想や意見が反映されている実感を持っていただくことが大切でありますので、そのことによって今後更に様々な活動に参加していくことにつながっていくのではと思っております。

皆様には、今回の提案について、良かった点をほめていただくことはもちろんですが、もっと踏み込んだ方が良かった点、足りない点などについても御助言をいただき、子どもたちの柔軟で自由な発想を実際の我々の少子化対策に反映するために更に磨き上げていくお手伝いをいただきたいというように思っております。これが一点目でございます。

我々の方でも、今回作り上げた提言に対し、大人たちからどのような意見があつて、どのように扱われていったのかを子どもたちに見えるようにすることが大切であると考えておりまして、本日の審議経過の議事録や提案に対する知事の思いですとか、提案した際の発言、それから道の施策に反映できる点などについて、参加をしていただいた子どもたちには、きちんとフィードバックしたいと考えてございます。

それから二点目ですけれども、この取組のことでございます。従前から20名程度の中・高校生に集まってもらって、意見交換をし、知事への提言を取りまとめるという方法をとってございますけれども、我々としてもこれがベストであるとは思っておりませんので、皆様方で、子どもたちの意見表明機会の確保、意見の尊重、施策プロセスへの反映などを目的とした道の取組に対する改善点ですとか、今後の取組のヒントになるようなことがあれば、是非、忌憚のない御意見を伺いたいと考えております。

かけられる予算ですとか、人員、時間の問題もございますが、見直せるものはどんどんやっていきたいと思っておりますので、短い時間ではありますが、よろしく願いを申し上げます。

以上、簡単ではありますが、開会の挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

《審議会成立宣言・委員紹介》

【子ども子育て支援課 寄木課長補佐】

本日は、村上委員、前田委員、池部委員の3名の委員の皆様から御都合により欠席される旨の御連絡をいただいております。また、本日、山田園子委員と五嶋絵理奈委員は、出席の意向があり、現在、機器の接続を確認中でございます。現時点で、委員総数15名のうち、10名の出席をいただいておりますことから、「北海道子どもの未来づくりのための少子化対策推進条例」第27条第2項の規定に基づきまして、本審議会が成立していることを御報告申し上げます。

また、今年度第2回審議会から審議会委員の交代がありましたので、新たに委員になられた方を御紹介させていただきます。北海道医師会 寺本委員でございます。

【寺本委員】

よろしくお願いいたします。

【子ども子育て支援課 寄木課長補佐】

それでは次に配付資料の確認をさせていただきます。本日の資料ですが、会議次第、資料1「北海道の少子化に関する提言について」、資料2「北海道子どもの未来づくり審議会子ども部会特別委員が感じたコロナ禍での変化や気づきについて」を事前にお送りさせていただいております。皆様、お手元に御用意いただいておりますでしょうか。

続きまして、本日の会議日程であります。次第にありますとおり、審議事項は「令和3年度北海道子どもの未来づくり審議会子ども部会の審議結果報告及び知事への提言について」となっております。終了時間は、概ね16時15分を予定しております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これ以降の議事進行につきまして、松本会長にお願いいたします。

《審議事項》

【松本会長】

皆様、お忙しいところお集まりいただき、どうもありがとうございます。今、事務局から御案内がありましたけれども、審議事項は一点でございます。

それでは、早速、議事に入りたいと思います。野村委員からよろしくお願いいたします。

【野村委員】

子ども部会の部会長を仰せつかった野村でございます。今日の配付資料、資料1が、提言書の案でございます。資料2の方が、子ども部会の審議内容、代表的な御意見等、拾い上げたものでございます。

それでは、資料1の提言書の内容、審議結果の部分につきまして、報告をさせていただきます。表紙が提言ということになっていて、目次、松本会長の「はじめに」がありまして、2ページ目が検討の経過であります。御覧のとおり、本審議会でもテーマの協議をいたしました。「新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中であっても、私たちが未来に希望を持って生活するために必要なこと」ということで、現在の時局を得たような形のテーマを設けましてですね、子ども部会自体は、7月28日、29日の2日間にわたって、初めての経験でオンラインの開催とさせていただきました。私自身がオンラインに不慣れなところもあって、子ども部会の協議について、うまくいくか不安に感じていたのですが、子どもたちは頭も柔らかく、対応もしなやかということで、私の心配などどこ吹く風で、オンラインでも活発な意見の交換がなされていて、すごく安心しまして、頼もしいなと思った次第でございます。

2日間にわたってなのですが、初日はですね、NPOの講師の方から「未来に希望を持つってどういうこと」というようなアイスブレイクも含んだ形の講義を聞いていただいて、2日目に大きなテーマのところを3つのグループに分かれて、討議をいただいたという経過がございます。進行役につきましては、前回までの反省、審議会委員からの御意見も踏まえて、道教委の職員の方がグループに1人付いていただいて、うまく討議をファシリテートいただいたと思っております。

具体的な提言の内容は、3ページからになります。提言の全体像を1ページでまとめたもので、具体的なテーマは先ほど申したとおりで、提言の項目ということで、3ページの真ん中から下の枠に囲った3つの点を提言ということでまとめさせていただいたということでございます。

具体的に4ページから、3つの提言のねらいであるとか、実現するためにはどういった手立てがあるのかというようなところを4ページ以降、3つの項目毎に1ページに落とし込むというような作りとなっております。

まず、提言項目の1でございます。「新型コロナウイルス感染症に対する不安があるので、収束の見込みや感染した時の苦しさや後遺症などの情報についても、発信してください。」というような部分を項目1としました。ねらいといたしましては「新型コロナウイルス感染症に関する不安の軽減を図りたい。」というのがありました。

具体的に軽減を図る上では、どのような手立てがあるのか、という部分のアイデアを出していただくという形にまとめをさせていただいて、手立てとしては、ここにある三点ですね、まずは正しい情報を公表していただいて、コロナに対する漠然とした不安を軽減させてほしいというような点が一点。

二点目には、未来に希望を持って生活できるように、コロナに関する明るい見通しのある情報、これはなかなか難しい条件であったのですけれども、こういう情報を公表してほしい。

三点目には、コロナを軽視することがないように、罹患した時の苦しさ、後遺症などを周知することで、感染防止対策の徹底、これの重要性を伝えてほしい。というようなところを提言の1としてまとめをさせていただいたところです。

続いて、提言の2ですが、資料の5ページをお開きください。「誰もが新型コロナウイルス感染症に感染する可能性があるので、偏見や差別をせず、人を思いやる気持ちを持つことを周囲に伝えたい。学校などでも、差別や偏見についての教育をしてください。」ということ項目の2つ目としました。

ねらいといたしましては、「コロナによる偏見や差別をなくし、誰もが安心して暮らせる社会にしたい。」ということです。

この手立てといたしましては、四点ございます。一点目は、人を思いやる気持ちを持ってもらうため、動画などを使って、自分も感染するかもしれないということ、身近な問題であるということ伝えてほしい。

二点目、オレンジリボンなど、こういう運動はほかにもありますが、リボンなどを着用することで、私は差別をしないという意思を相手にもわかるように視覚化して、周囲に差別をしないことを伝えられるようにしていきたいということです。

三点目には、子どもなど、もっと小さな頃から差別や偏見についての教育をしてほしい。

最後、四点目には、差別や偏見について、気軽に相談できる場所を作ってほしい。ということ提言の2としてまとめました。

提言項目の3ですが、6ページをお開きください。「コロナ禍でも地域の友人とのつながりを大切に、自分たちでできることを考えて新たな挑戦をしたい。地域の商店やひとり親などコロナで苦しんでいる方々への支援をお願いします。」ということで、このねらいといたしましては「コロナ禍でも地域とのつながりを持って、苦しんでいる方々を支援したい。」これは、こちらから作り出して絞り出したものではなくて、協議の中で自然に出てきたものでございました。

具体的な手立てといたしましては、五点あります。一点目は「希望のある未来に向けて、できること自分たちで考えて、新たに挑戦をし、地域の問題をつくっていききたい。」

二点目、「コロナ禍でも友人や身近な人と疎遠にならないよう、SNSや手紙を活用して、近況報告を行ったり、意見交換をすることで、人と人とのつながりを維持できるようにしていきたい。」

三点目、「地域で使用できる商品券などを発行して物を買うきっかけにしたり、ロボットの活用や宅配サービスを進めることで経済を発展させ、活気のある社会になってほしい。」

四点目、「コロナ禍で特に大変だったひとり親世帯など、経済的に苦しい方への支援をしてほしい。」。

五点目、「行動制限を要する時期であっても、少しでも楽しむために、インターネットでの買い物ができるお店や家の中でも外出した時と同様に楽しむことなどの情報を発信してほしい。」というようなことが手立ての中で挙げられました。

7ページには、特別委員ということで、全道各地から中・高校生17名の方が3つのグループに分かれて、協議を行っていただいて、まとめていただいたのが、今、御報告をした内容でございます。

資料2のところでは、代表的な意見等を、コロナ禍で起きた身の回りの変化ですとか、気が付いたことを、箇条書きではありますけども、まとめをさせていただいたところでございます。

大変、雑ぱくではございますが、子ども部会は、こういった形で、審議結果を提言の案として本日まとめさせていただいたので、皆様方の御意見等をお聞きさせていただきながら、案を取っていききたいなと思っているところでございます。

【松本会長】

大変丁寧にまとめていただき、ありがとうございます。

また、コロナ禍で初めての試みということで、オンラインでの開催で準備に当たられた事務局の方、ファシリテートを務められた方々にも大変御苦勞があったかと思えます。どうもありがとうございました。

野村委員から報告をいただきましたけれども、この内容について御意見、御質問のある方ございますでしょうか。御意見をいただいた上で、本日のところで、提言として取りまとめて、提出をするという風にいければと考えております。

御意見があれば、手を挙げていただいて、私の方から反応がなければ、御発言をお願いします。

【山田智子委員】

提言項目の3のところ、地元の商店やひとり親などコロナに苦しんでいる方々であるのですが、この子ども委員、中学生や高校生の身近な友達の家庭というか、友達の姿を通して、経済的に苦しい子ども自身の貧困の状況など、そのような話はなかったのでしょうか。

地元の商店やひとり親などコロナに苦しんでいる方というのは、もちろんそこも大事なのですが、子ども委員の周囲の子どもの家庭というか、そここのところが入ってきた方が良いのかなと思って、お話をお聞きしました。

【松本会長】

野村委員の方からいかがでしょうか。どのようなお話が出たかということですが。

【野村委員】

ここの意見のところは、困っている当事者の声ではなくて、テレビで見たとか、具体的に同じクラスの誰々が困っていたというところの御発言ではなかったのかなと思われる。

テレビやYouTubeもそうですが、いろいろな情報が入ってきますので、そういった情報をみて発言をいただいたという感覚でございます。事務局の方いかがですか。

【松本会長】

当日、同席された事務局の方もいらっしゃると思うので、いかがですか。

【加賀主査】

当日、話をしている中では、ひとり親ですとか、報道ですとか、周囲から聞く印象、イメージ、想像というところ、そこから膨らんでいるという印象はありました。実際に目の前に困っている人がいるというよりも、そういったものを見て、「私たちはそう思います」といった流れであったかと思えます。

【松本会長】

山田委員よろしいでしょうか。全体の雰囲気も共有いただいたということで。

【山田智子委員】

はい。様子はわかりました。

【松本会長】

ほかはいかがでしょうか。特に御質問、修正に関する御提案があればと思えますけども。

なければ、一旦こういう形で、提言としてまとめて提出をするということについて、御承認いただけますでしょうか。

よろしいでしょうか。(異議なし)

ありがとうございます。それではこれで御承認をいただいたということで、提言として取りまとめるというようにしたいと思います。

その上で、私の方からお聞きしたいことがあるのですが、次年度以降に関して、情勢はどうなっているかわからないですけれども、子ども部会でどういう持ち方が良いかということは、今年度おやりになって感じたことがあれば、委員全体で共有をさせていただけると、次年度以降につなげていけると思うのですが、ポジティブな面もあれば、改

善点もあれば、この子ども部会の持ち方そのものも、どう考えたら良いだろうかということも、これまでの議論にもあったかと思しますので、その点、野村委員いかがでしょうか。

【野村委員】

今年度のやり方を来年度以降もというのとは別にしまして、オンラインを使って、子どもたちの声を聞くというやり方は、冒頭でも申し上げましたとおり、私たちが考えるよりは、スムーズに行くのではないかという感覚は持ちました。

今のやり方でありますと、もう少し自発的な参加、そういったものを共有できるような仕組み、收拾がつかなくなる恐れも多分にありますけれども、そういった持ち方もありなのかなと、当日見ている感じのところではございます。

【松本会長】

オンラインのやり方は、懸念もあったけれどもうまくいったということと、オンラインだからできるということで、少しいろいろな範囲も広げていくとか、進め方もあるのではないかという、そういった発言ということで理解してよろしいですか。

【野村委員】

はい。そのとおりです。

【松本会長】

わかりました。参加の範囲とかその辺も含めてですね。

ほかの委員の皆様、一旦提言は提言としてお認めいただいた前提でございますけれども、次年度に向けて、こういったやり方はあり得るのだろうかとか、御意見、御質問等がありましたら、今日何か決めるという訳ではありませんけれども、意見交換をしておきたいと思えます。

ファシリテートに入っていたということについてはいかがですか。オンラインの中で議論するときにはファシリテーターの役割はすごく大きいと思うのですが。

【野村委員】

よろしいでしょうか。そういう分野に長けた方に今回付いていただいたので、引き出し方が上手、そういう部分で活発な意見交換ができたかと思えます。

ただ、オンラインだと、こういうグループワーク、トークルームのような部分を多く持てば数多くの意見を集めることはできるのですが、そのグループの数だけファシリテートとする方が必要となり問題も出てくるし、グループが少なくなれば、あまねく広くというようにはいかなくなると、その辺りはジレンマかと思うのですが、今回の

ファシリテーターは上手な方ばかりだったので、良かったと思っております。

【松本会長】

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

【山田智子委員】

一つの案として、道内の対象となる中学校、高校はたくさんあると思うのですが、そういうところに少子化に関する子どもの提言をこういう事業をしているのだけれども、それに取り組む学校を募集するというか、その学校で先生が主になって、すごく良い授業になると思うのですが、学校として何か提言を作ってもらって、それを持ち寄って、学校の代表となった子どもが、今回のようなことをするというのもどうかなと考えます。1人の意見ではなくて、学校を代表して出てくるというようなイメージです。

【松本会長】

これまでの議論には出てこなかった重要で新しい御意見かと思えます。どういった形でお子さんに参画いただくかということについて、学校という場と連動していくことが大事だろうということかと思えます。

今の山田智子委員の御発言なりアイデアは、この審議会で次年度のあり方を議論する時に引き継いで意見交換をするということにしたいと思えますが、事務局の方はそれでよろしいですか。

【加賀主査】

教育の方とも相談しながら、あり方を検討するときにお話しできればと思います。

【松本会長】

より多く子どもたちが参画できてかつ議論が活性化していくという観点から見たときに、一つの大事な御提案かと思えますので、事務局の方でも御検討いただいて、引き継いで議論したいと思います。

【松本会長】

他の委員の方から何か御発言等ございますか。なければ、この議題は一旦閉じたいと思います。(発言なし)

それでは、事務局にお返しいたします。

《閉 会》

【子ども子育て支援課 寄木課長補佐】

松本会長、各委員の皆様、大変お疲れ様でした。各委員の皆様におかれましては、今後も、それぞれのお立場から、引き続き御協力くださいますようお願いいたします。

なお、第1回の審議会で山田智子委員から御意見をいただいております件がございます。「各市町村の事業の進捗状況が確認できるような資料」を付けていただきたいというお話がありましたが、これにつきましては、次の計画推進状況の報告までに資料を取りまとめさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それではこれもちまして、令和3年度第2回北海道子どもの未来づくり審議会を閉会させていただきます。委員の皆様、本日はありがとうございました。

(了)